

日々の祈り

2021年5月24日(月)~29日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・ペンテコステの恵みの内に、イエスさまの救いの喜びを証しする者とされるように。
- ・兄弟姉妹の日々の生活と信仰の歩みが守られるように。
- ・コロナ禍で苦しみや困難の中にある人々に、癒しと平安が与えられるように。

24日(月)

使徒言行録2章3~4節

そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。昨日はペンテコステの恵みを覚えました。イエスさまが十字架と復活の御業を成し遂げ、天に上げられた後、祈っていた弟子たちに聖霊が降りました。それは聖霊の御力によって、天のイエスさまが地上の弟子たちといつも共にいて下さるためであり、また弟子たちにイエスさまの福音を世界中に証しさせるためです。ここに教会が誕生し、今わたしたちも福音を聞き、変わらないその聖霊の息吹の中で生かされているのです。

25日(火)

ローマの信徒への手紙8章14~15節

神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

目に見える罪や悪や苦しみの現実の中で、恐れに捕らわれる日々の中で、わたしたちは自分の目に映るものに支配されてはなりません。神さまこそが、わたしを支配しておられます。そして、神さまがわたしをどう見て下さっているか、どう取り扱って下さっているかを知ることが大切です。わたしたちが受けたのは、他でもない、神の霊なのです。そして、わたしたちは神の子とされ、天地の造り主であり全能の神を「アッバ、父よ」と呼ぶ者とされているのです。

26日(水)

詩編 32 編 7 節

あなたはわたしの隠れが。

苦難から守ってくださる方。

救いの喜びをもって／わたしを囲んでくださる方。

わたしたちは神さまに信頼して、詩編の詩人と共にこのことを告白し、賛美し、幼子のように身を委ねてよいのです。神さまはわたしたちの隠れ家であり、苦難から守ってくださる方であり、救いの喜びをもって、わたしたちを囲んで下さる方です。

27日(木)

ホセア書 11 章 3~4 節

エフライムの腕を支えて／歩くことを教えたのは、わたしだ。しかし、わたしが彼らをいやしたことを／彼らは知らなかった。わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き／彼らの顎から軛を取り去り／身をかがめて食べさせた。

神さまがイスラエルの民を、そしてわたしたちを、どれだけ愛してこられたかが語られています。全能の神が、わたしたちの腕を支えて、歩くことを教えて下さったのです。天地の造り主が、わたしたちをいやし、愛をもって導き、その身をかがめて食べさせて下さったのです。それほどに、神さまはお造りになった者たちを愛し、憐れみ、大切に守り、養ってこられたのです。わたしたちはこの愛を受けてきたのです。知らなかったと言わず、知って、この愛にお応えする歩みをしたいのです。

28日(金)

詩編 91 編 4~5 節

神は羽をもってあなたを覆い／翼の下にかばってくださる。

神のまことは大盾、小盾。

夜、脅かすものをも／昼、飛んで来る矢をも、恐れることはない。

次の主日礼拝の御言葉です。天地の造り主であり、万軍の主である方が、わたしたちを守って下さいます。親鳥が雛を守るように、父なる神さまは暖かな羽をもってあなたを覆い、その宇宙を覆い尽くすほどの大きな翼の下にあなたをかばってくださる、と言われていています。昼も夜も、恐れることはありません。この神の御手の守りを、わたしたちは信頼し、安んじてよいのです。

29日(土)

ルカによる福音書 13 章 34 節

エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。

明日の主日礼拝の御言葉です。神の御子イエスさまは、御自分の十字架の死によって人々を罪と滅びから救い出すためにエルサレムへ向かっておられます。そしてこの救いに与らせるため、人々に神の国を告げ、悔い改めへと招き、御業を行ない、近く来られて交わり、人々が神さまの御許に立ち帰ることを心から求めておられるのです。人々を守りたい、救いたい、生かしたいと願い、ご自分の救いの翼の下に集めようとしておられるのです。「だが、お前たちは応じようとしなかった。」わたしたちはどうでしょうか。